

文庫あれこれ◆あんなに暑くて日が照っていたのに、ここ伊豆高原では雨の日が10 数日続いているとか。朝まだ暗いうち起き出したら、深い霧が立ち込めていました(月に1 度くる私には、これはこれでなかなかよいのですが)。今日16 日夕、風が出てきて、向こうに見える背高のっぼの木の樹々が重い枝葉を折り曲げんばかりに大きく揺れています。◆最近スタッフ間のおしゃべりは、終末期をどこでどう過ごすか、です。観たくても、聴きたくても、東京は遠い、でも、この景色の移り変わりは捨てがたい…。◆でも、東京に居たって、観たい、聴きたいを見逃してしまいがちです。◆それでも、先月から今月にかけて、いくつかの楽しい講演会にでかけ、映画を2 本観ました。でも岩波ホールのお静かなる情熱(エミリー・ディキンソン)を観に行きましたら、何と、同じ年代の男女で溢れかえっていました。昔を振り返ってみるのですかね、年老いと…。ちゃんと読もうと、詩集(文庫本ですが)1 冊入れました。ついでにはないのですが、今月は3 冊ほど詩集を。劉曉波の詩集も。◆講演会はどれも子どもの本がらみですが、掛川出身でお住いの翻訳家・清水真砂子(ゲド戦記など多数)さんの歯切れのいい話が面白かったです。朝日で取り上げられた大学生の、読書はしなければならないのか、は、考えさせられます。しないのは個人の勝手だけど、読書できないのはかなり、人生での楽しみ(本に代わるものがたくさんあっても)が少なくなりますものね。それなのに、そのとき、24 歳の若者曰く、今では本を読んでると仲間外れにされる傾向だと。◆で、読書家のもと伊藤忠の丹羽さんの新書『死ぬほど読書』も入ってみました。◆この年になると、夏休みだから何だ! ですが、日頃海外にいる孫に会えるのはなかなか嬉しいもの。ぜ〜んぶお嫁さんのお里にお世話になって、こちらは1 日会うだけ、lucky!!子どもはどんどん大きくなり、付き合ってくれるのも、小学低学年まで。近くにいる孫はみんな女の子なので、男の子のすることなすこと珍しく、成長の度合いがみられて面白かったです。◆7 月の海の日のお話会、S 君の落語に大笑いし、A ちゃんのこわい話にぞくぞくとし、ベテランの語り手の話に引き込まれ、そして、大室のコーラスグループの歌を存分に楽しませていただきました。出演者、聴きにきてくださった方々ありがとうございました。(西村)

★開館日は通常は 第3日曜と前日の土曜です★

- ◆8月 はちょっと長めの開館 17日(木)～20日(日) 日程を変更しました。
- ◆9月 は通常 16日(土)、17日(日)の両日
- ◆10月 は4週目 21日(土)、22日(日)両日
- ◆11月 は通常 18日(土)、19日(日)の両日
- ◆12月 も通常 16日(土)、17日(日)の両日

文庫の時間
土曜日は 14:00～17:00
日曜日は 10:00～15:00

☆毎月開館日の日曜には、10:30～11:45 子どものための小さなおはなし会があります。

★おはなし沙羅の勉強会
毎月開館土曜日 11:00～13:00
よみかかせの練習・本選の勉強にもどうぞ!



みんな大笑い(写真が小さくて聴き手の笑い顔をお見せできず残念!) 於 17 回海の日のおはなし会

沙羅の樹文庫 0557-51-3737
http://www.saranokibunko.com

沙羅の樹文庫だよ!



絵本『ちいさいおうち』(岩波書店)は、パージニア・リー・パートンさんの傑作です。きっと、文庫のみならず、そして、もう大きくなったおねえさん、おにいさんも、おかあさんに何回も何回も、よみかかせをしてもらったことでしょう。8月のはじめ、パートンさんの原画展・作品展に行ってきました。会場にちいさいおうちが、建てていました。(関連記事は今月入った子どもの本の欄に…)

小鳥が一つずつ
音をくわえて とまった木
その木を
ソナチネの木 という

海の涯は 湾なのだと
信じていた なつかしい人びと
海の涯から とびおると
空へ落下するのだ と

岸田衞子 <ソナチネの木> より

ぶんがく 余話

2017. 8. 13 by 森林浴

猛暑が続いて、いささかサテ気味なので、今回はいつものような読書感想文はお休みして、一寸脇にそれますが、「文学賞に関する雑談」で堪忍して頂きます。

地元の文学賞「伊豆文学賞」については過去二回ばかり書いた記憶がありますが、小説で一等に入選すると、賞金は100万円ですから、なかなかたいした賞ですね。

一寸調べると、文学賞というのは沢山あり、対象別には、純文学・大衆文学・児童文学・詩歌・ノンフィクション・評論・研究・エッセイなどに分類され、さらに海外での賞も加えると大変な数になるようです。普通の文学でも、公募新人賞と非公募新人賞に分かれ、例の芥川賞(純文学)や直木賞(大衆文学)は非公募。(ただし直木賞は、創設当時は新人作家を選んでいたのが、最近の実績でいうとすでに作家として一本立ちしている中堅以上の作家への受賞が専らなので、新人賞とは言えなくなっているらしい。)公募新人賞と言えるのは、文学界新人賞・群像新文学賞・オール読物新人賞などが該当すること。

ところで最近注目すべきは、2004年に書店員が創設した「本屋大賞」が大きく話題を集めるようになったことで、例えば、156回直木賞受賞の恩田陸の「蜜蜂と遠雷」は第14回「本屋大賞(2位)」とのダブル受賞で注目を集めました。

しかし、何と言っても最近の最大の話題は、2015年上期に芥川賞を受賞した又吉直樹の「火花」で、文藝春秋から出版された「火花」の単行本が既に史上最高の229万冊売れたと言う記録。

これについては、「そもそも文学賞とは何か」ということ—これは賞なのか「ショー」なのか、本業が小説家でない者が受賞することは疑問を感じる(常見陽平)と言う意見もありますが、一方で、これだけ売れたなら、芥川賞・直木賞を1935年に創設した明治の文人、「文藝春秋」の創設者菊池寛が「これらの賞は、半分は雑誌の宣伝にやっているのだ」と言ったその目的は達成されたと言ってよいでしょう。面白いのは、「火花」は2016年の本屋大賞(第13回)では最下位・最小点数の10位だったことですね。

まあ一番話題になる文学賞は何と言っても「芥川賞」ではあるが、いろいろ問題点は指摘されています。①新人賞の筈が、新人ではない人が受賞。問題になったのは、すでに大きく活躍していた大江健三郎が受賞したケースなど。②作品の長さ—せいぜい原稿用紙150枚くらい、の基準の妥当性(該当作がその時の文藝春秋誌に全文公開されるという慣行から致し方ないでしょうが)、③直木賞との境界—井伏鱒二が直木賞で、松本清張が芥川賞となったのはどうしてなのか、④芥川賞の選考委員—が「終身制」であり、多すぎる、適任でない人がいる、などの批判があります。この辺は、大森望と豊崎由美の書いた「文学賞メッタ斬り!」と言う本に詳しく指摘されていますので、ご一読ください。

さらに世界を展望した場合に、村上春樹が何故なかなかノーベル文学賞を受賞できないのか、という問題も残っています。あれれ、ボブ・ディランは歌詞で受賞したのにね。

★寸評 と言えるかどうか・・・★

隔月で子どもの本の書評ならぬ個人的な感想を書く機会をもらっているので、大人の本より子どもの本は読む。それもごくごく浅く。数日前、テレビでナガサキがなぜ、浦上天主堂の焼け跡を残さなかったか、の、ドキュメンタリーをやっていた。食事の片付けをしながら何とはなしに聞いていたので、言わんとしていることが定かではなかったが、そう言えば2年ほど前に、『浦上の旅人たち』(今西祐行作 岩波少年文庫)を読んで感想を書いた。隠れ切支丹として捉えられ、不毛な島に流され、その土地で棄教をせまられ、それでも生き延びて浦上に帰って、生き残った人々のために働いた女性を中心に描かれた物語で、信仰をもつということがどういうことか、少なからず考えさせられたが、到底理解できなかった。原爆が落とされた後、長崎の市長や司教が再建を進めた裏に、やはりヒロシマの原爆ドームとは微妙に異なる浦上の信者たちの思いがあったのだろうか。

私は子どもの本でも、日本のものより、外国(特にイギリス)の物語が好きだ。よその国だから、わからないところはそのまま through できるから、いや、そうではなく、日本の情のようなものでなく、あいまいさもよく、納得できるものがあるからだと思う。たとえば、妖精や小人や精霊、幽霊の話でも、そして好きなのが、古今東西、子どもが夢を持ち続けられる situation があり、見守る健全な大人がいること。旅の物語(や、物語の進行に従って、色々な土地が出てくるのがうれしい。地図を友に我々読者も登場人物と旅ができるのだ。)が想像を掻き立ててくれる。文庫便りを作らねばならぬのに、昨夜も夜っぽく読んでしまった本は、サトクリフの『ほこりまみれの兄弟』(評論社)である。

というわけで、文庫便りに時間はとれず、おまけに、PCがなぜか揺れ動いてうまく動作せず、いつにも増して、身のないう文庫便りになりました。(さーら)

17年8月に入った子どもの本

絵本

『うんちっち』(ステファニー・ブレイク作 ふしみみさを訳 あすなる書房 2011) ID12498
『あっ、オオカミだ!』(ステファニー・ブレイク作 ふしみみさを訳 あすなる書房 2013) ID12499
『ほね(かがくのとも絵本)』(堀内誠一作 福音館書店) ID12486
『たんじょうびはかそうパーティー!』(カタリナ・ヴァルクス作 ふしみみさを訳 文研出版 2016) ID12229
『あなたのいえ わたしのいえ(かがくのとも絵本)』(加古里子作 福音館書店) ID12487
『地下鉄のできるまで(みるすかん・かんじるすかん 銀の本)』(加古里子作 福音館書店) ID12488
『おせんとおこま』(飯野和好作 ブロンズ新社 2016) ID12489
『ふしぎな銀の木 スリランカの昔話』(シビル・ウェットシンハ再話・絵 松岡享子、市川雅子訳 福音館書店 2017) ID12490
『チャーリーとシャーロットときんいろのカナリア』(チャールズ・キーピング作 ふしみみさを訳 ロクリン社 2017) ID12494

よみもの

『靴屋のタスケさん』(角野栄子作 森環絵 偕成社 2017) ID12493
『グリムのむかしばなし』(ワンダ・ガアグ編・絵 松岡享子訳 のら書店 2017) ID12491
『ホイッパーウィル川の伝説』(キャシー・アップ

ルト&アリスン・マギー著 吉井知代子訳 あすなる書房 2016) ID12483
『モギーちいさな焼きもの師』(リンダ・スー・パーク著 片岡しのぶ訳 あすなる書房) ID12495
『サラスの旅』(シヴォーン・ダウド著 尾高薫訳 ゴブリン書房 2012) ID12496
『霧のなかの白い犬』(アン・ブース著 杉田七重訳 あかね書房 2016) ID12497

かみしばい

『天の石屋戸(日本の神話シリーズ①)』(西野綾子脚本 黒田征太郎絵 かみありづき) ID12501
『やまたのおろち(日本の神話シリーズ②)』(西野綾子脚本 長野ヒデ子絵 かみありづき) ID12502
『イナバのしろうさぎ(日本の神話シリーズ③)』(西野綾子脚本 長野ヒデ子絵 かみありづき) ID12503
『根の国のものがたり(日本の神話シリーズ④)』(西野綾子脚本 渡辺享子絵 かみありづき) ID12504
『小さな神さま(日本の神話シリーズ⑤)』(西野綾子脚本 やべみつのり絵 かみありづき) ID12505
『国ゆすりのものがたり(日本の神話シリーズ⑥)』(西野綾子脚本 ススキコージ絵 かみありづき) ID12506

古事記の物語をかみしばいにしたものを、入れました。読むのとまだ違うスケールの大きさを感じられます。学校でもよみかぜに使ってみてください。

『藤田浩子のあやとりでおはなし』(藤田浩子編著 保坂あけみ絵 一声社) ID12500

!★みんな、あやとり、できる? おうちの人とやってみて!

バージニア・リー・バートの絵本※

『せいめいのれきし 改訂版』ID12454

『せいめいのれきし』旧版:ID1105

『ちいさいおうち』(小型本):ID4696

『ちいさいおうち』(大型本):ID1201

『ビュンビュンしゃをぬく』ID1314

以上 岩波書店刊

『はたらきものじょせつしゃけいてい』ID1411

『マイク・マリガンとスチーム・ショベル』ID967

以上 福音館書店刊

上に書いたのは文庫にある本。ほかにも図書館でさがして読んでください。特に男の子が好きなお本。

★原画展で手に入れたバートの資料、お貸しします。彼女の仕事に感動した話、今回書けず。躍動する生命力、素晴しかったです。



開館記念子どものためのおはなし会で、みんなで、「弁慶が五条の橋をわたるとき、うんどこっこいしよ、うんどこっこいしよ、とやってわたる」と、うたいながら、おどっているところ。(17.7.17 文庫の庭で)

17年8月に入ったおとなの本

フィクション

『影裏』(沼田真佑著 文藝春秋 2017) ID17131
※今期芥川賞。なお、直木賞の佐藤正午『月の満ち欠け』はすでに文庫にあります。
『パーマナント新喜劇』(万城目学著 新潮社 2017) ID17132
『あとは野となれ大和撫子』(宮内悠介著 KADOKAWA 2017) ID17133
『か「」<「」し「」こ「」と「」(住野よる著 新潮社 2017) ID17146
『悲しみについて』(津島佑子著 人文書院 2017) ID17147
『アニの夢私のイノチ』(津島佑子著 小学館 2017) ID17138
『世事は煙の如し 中短篇傑作選』(余華著 岩波書店 2017) ID17134
『ピンポン』(パク・ミンギュ著 白水社 2017) ID17135
『階段を下りる女』(ベルンハルト・シュリンク著 新潮社 2017) ID17148
『書架の探偵』(ジーン・ウルフ著 早川書房 2017) ID17136

エッセイほか

『風と共にゆとりぬ』(朝井リョウ著 文藝春秋 2017) ID17137
『今日はヒョウ柄を着る日』(星野博美著 岩波書店 2017) ID17139
『忘れられないひと、杉村春子』(川良浩和著 新潮社 2017) ID17140

『戦争中の暮しの記録 保存版』(暮しの手帖編 暮しの手帖社 23刷) ID17160
『「私には敵はいない」の思想 中国民主化闘争二十余年』(劉曉波ほか著 藤原書店 2011) ID17141
『私の西域、君の東トルキスタン』(王力雄著 集広舎 2011) ID17142
『樹木たちの知られざる生活—森林管理官が聴いた森の声』(ペーター・ヴォールレーベン著 早川書房 2017) ID17156
『障害者殺しの思想 増補新装版』(横田弘著 現代書館 2015) ID17159

『見えない涙 詩集』(若松英輔著 亜紀書房 2017) ID17143
『まど・みちお詩集』(谷川俊太郎編 岩波文庫 2017) ID17144
『ソナチネの木』(岸田衞子著 安野充雅え 青土社) ID17162
『詩集 牢屋の鼠』(劉曉波著 多島安恵、馬麗訳・編 書肆侃侃房 2014) ID17145
『オノマトベの謎』(窪園晴夫著 岩波書店 2017) ID17149

文庫

『花の命はノー・フューチャー Delux edition 2017』(プレイティみかこ著 ちくま文庫 2017) ID17150
『二千七百の夏と冬 上・下』(荻原浩著 双葉文庫) ID17151,2

『高慢と偏見 上・下』(ジェーン・オースティン作 富田彬訳 岩波文庫) ID17153,4

『ジェーン・オースティン『高慢と偏見』恋愛は、対決だ(NHK100分de名著)』(廣野由美子著 NHK出版 2017) ID17155※文庫と共にどうぞ。
『対訳ディキンソン詩集(アメリカ詩人選3)』(エミリー・ディキンソン著 亀井俊介編訳 岩波文庫) ID17158

新書

『死ぬほど読書』(丹羽宇一郎著 幻冬舎新書 2017) ID17157

寄贈

『旭山動物園日誌』(あべ弘士著 出版工房ミル) ID17161※旭川Kさんより。
『新任巡査』(古野まほろ著 新潮社 2016) ID17163
『鬼神』(矢野隆著 中央公論新社 2017) ID17164
『アクシデンタル・ツーリスト』(アン・タイラー著 田口俊樹訳 早川書房) ID17165※Mさん。
『孤独を生きる』(瀬戸内寂聴著 光文社知恵の森文庫) ID17167※Iさんより。
『般若同心と変化小僧1』(小杉健治著 光文社文庫) ID17168
『にらみ(新・古着屋総兵衛14)』(佐伯泰英著 新潮文庫 2017) ID17169※Nさんより。
『覚悟の磨き方—超訳 吉田松陰』(池田貴将編訳 サンクチュアリ出版) ID17166